

姉崎音頭

作詞 森田喜一郎
作曲 細川潤一
唄 三門順子

伝承者 湯山元三郎
高山ふみ(姉崎)

一 ハア

磯の千鳥のヨ

鳴く音にあけてネ ヨイトネ

白帆うれしや 姉ヶ崎

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

四 ハア

松の嫌いなヨ

明神様のネ ヨイトネ

夫婦杉の木 縁結び

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

二 ハア

桜花咲ヨ

椎津の山はネ ヨイトネ

昔武田の 城の跡

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

五 ハア

願い掛けたやヨ

明神様にネ ヨイトネ

主の大漁と わが想い

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

三 ハア

孝子五郎にヨ

義僕の市兵衛ネ ヨイトネ

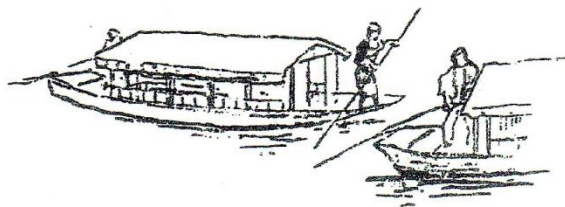
末の世迄も 名は残る

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

姉崎音頭

作詞 森田喜一郎
作曲 細川潤一
唄 三門順子

The musical score is written in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 2/4 time signature. It consists of seven staves of music with corresponding Japanese lyrics written below each staff. The lyrics are:
 はア ア ア ア
 いそ の ち どりの ヨ なくウ
 ね に イ イ あけて ね ヨイトネ
 しらア ほ う れ エ シ イ
 や しらア ほ う れ エ シ イ
 や あね がア さア き サアサ
 よい とこ あね が さ さ イ イ イ



正坊山から海方面の眺め
(明治四十年頃)

一ハア

磯の千鳥のヨ

鳴く音にあけてネヨイトネ

白帆うれしやく姉ヶ崎

サアサヨイトコ姉ヶ崎

筑波山

富士山



千葉県市原郡
姉崎町全市

画：故郷姉崎町年中行事より

姉崎小学校

五大力船
(模型・姉小蔵)



昭和の初期まで、米や薪(まき)・炭を東京方面へ運んでいたが、鉄道・陸送に取って代わられた。

昔の姉崎は、遠浅の海が広がり、海には「五大力船(ごたいりきせん)」などの帆船が浮かび、西に富士山、北に筑波山を望む景色の良い町でした。

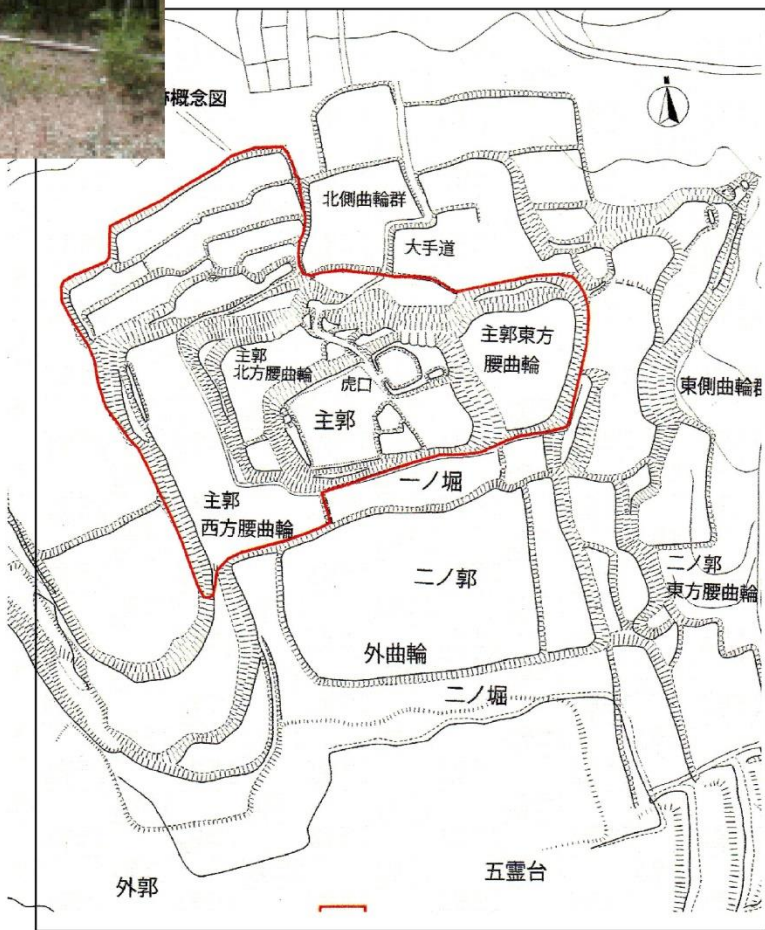
二ハア

桜花咲ヨ

椎津の山はネヨイトナ

昔武田のく城の跡

サアサヨイトコ 姉ヶ崎



椎津の山は椎津城のこと。

椎津城は戦国時代に甲斐(山梨県)の武田氏が築いたといわれている。

城を取り合う戦いが何回もあったが、最後は豊臣秀吉軍に攻められ落城し、再び使われることはなかった。

城跡は桜の名所でしたが、今はほとんど残っていません。

椎津城跡は、平成29年市県指定跡となりました

孝子五郎にヨ

義僕の市兵衛ネヨイトネ

末の世迄もく名は残る

サアサヨイトコ 姉ヶ崎

孝子 五郎



孝子
福富五郎

五郎は大変な親孝行でした。
 母親が死んでも、雷が鳴ると
 雷が嫌いだっただ母の墓にかけつけ
 墓を守るほどでした。
 鶴牧藩の殿様より褒美をもら
 いました。

◇ごろごると 鳴る雷に五郎来て
 親の墓所を守る孝行

義僕 市兵衛



市兵衛記
寫意

市兵衛は、家族を犠牲にして
 までも 島流しにあった主人の
 一家を助け、主人の許しを
 得るため江戸幕府までお願い
 に行き、十一年後に許しを
 得ました。

◇起きて聞け
 このほととぎす 市兵衛記

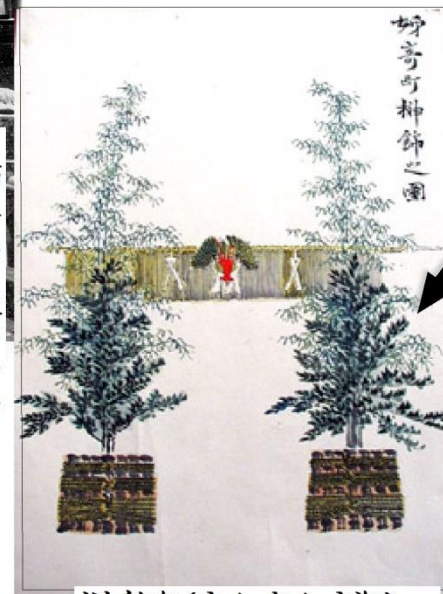
※二人の墓と歌碑はともに妙経寺にあります。

再建前の姉崎神社



四ハア

松の嫌いなヨ
明神様のネヨイトネ
夫婦杉の木く縁結び
サアサヨイトコ 姉ヶ崎



榊

榊飾り(さかきかざり)



連枝

夫婦杉(めおとすぎ)

姉崎神社の女神は
夫の帰りを待ちわびて
「待つはいやじゃ」と言いました。
それからは神社には
松は一本もなくなり、
門松を立てずに榊飾りを
立てるようになりました。
待つⅡまつⅡ松
「松はいやじゃ」

姉崎神社の大鳥居の脇に、
二本の杉の木に連結する枝
があり、これにコヨリを結び、
願い事をする。好きな人と
一緒になれると 言われてい
ました。
今は、夫婦杉は枯れて無く
なっていました。

五
ハア

願い掛けたやヨ

明神様にネヨイトネ

主の大漁とくわが想い

サアサヨイトコ 姉ヶ崎



昔の姉崎の多くの人々は、
漁業と農業の兼業で
暮らしていました。

昭和三十年後半、
海は埋め立てられ
漁業は終わりました。



昭和35年

海苔干し 姉崎



昭和30年頃 海苔作り

上:海苔干し 下:海苔採り



大正初期の漁業

上:十人網漁 下:アサリ漁

写真:いちはら昔写真集より